

P-577 赤芽球瘍を合併した胸腺腫の2例(縦隔腫瘍3, 第47回日本肺癌学会総会)

著者	小貫 琢哉, 山本 達生, 井口 けさ人, 酒井 光昭, 稲垣 雅春, 石川 成美, 鬼塚 正孝, 榊原 謙, 穴見 洋一, 飯嶋 達生, 鈴木 恵子, 野口 雅之
雑誌名	肺癌
巻	46
号	5
ページ	670
発行年	2006-11-05
権利	日本肺癌学会
URL	http://hdl.handle.net/2241/00135034

P-577 赤芽球癆を合併した胸腺腫の 2 例

小貫 琢哉¹・山本 達生²・井口けさ人³・酒井 光昭²
 稲垣 雅春³・石川 成美²・鬼塚 正孝²・榎原 謙²
 穴見 洋一⁴・飯嶋 達生⁴・鈴木 恵子⁵・野口 雅之⁴

筑波大学 大学院 人間総合科学研究科¹；筑波大学 臨床
 医学系外科²；土浦協同病院 呼吸器外科³；筑波大学 基礎
 医学系病理⁴；土浦協同病院 病理科⁵

胸腺腫は赤芽球癆(pure red cell aplasia:PRCA)の基礎疾患として重要である。両疾患とも稀な疾患で、合併頻度、治療効果などの報告は少ない。関連 2 施設で 1982 年～2006 年 4 月に治療された胸腺腫 120 例中、PRCA の合併は 2 例(1.7%) だった。PRCA は骨髓生検をもとに血液内科医が診断した。(症例 1)71 歳男性。1993 年に PRCA が発症し、同時に縦隔腫瘍と右肺扁平上皮癌の合併が認められた。輸血後に胸腺全摘術、右下葉切除術 (ND2a) を受けた。縦隔腫瘍は胸腺腫 (正岡 II, WHO AB)。肺癌は pStage IA と診断された。術後にステロイドが投与され (パルス療法→経口投与)、約半年後に貧血は軽快した。(症例 2)63 歳女性。1996 年に PRCA が発症、縦隔腫瘍も同時に認められたが本人の意思で手術を受けなかった。PRCA は輸血、ステロイド、免疫抑制剤 (Cyclosporin A: CyA, Cyclophosphamide) で治療されたが、治療抵抗性で副作用が問題となった。縦隔腫瘍の長径は 1997→2005 年で 18→25mm と増大した。2005 年 5 月に胸腺全摘術を受け、胸腺腫 (正岡 II, WHO B2) と診断された。現在は CyA の投与中だが貧血の軽快はない。【考察】胸腺腫の PRCA 合併率は約 5% といわれているが、本検討では 1.7% と低率だった。PRCA 合併の胸腺腫には Spindle cell type が多いといわれるが、症例 2 のように、WHO TypeB のものも存在する。胸腺腫には悪性疾患に準じた治療が必要なため、PRCA 合併の胸腺腫も基本的には手術適応と考えられる。一方、PRCA に対する胸腺摘除の効果は 30% 程度に留まるとされる。PRCA の予後が不良であることを考えると、実際の手術適応の判断は難しい。